

黒潮町立小中学校施設
「耐震診断結果」の公表

黒潮町では、昭和56年以前の基準で建築された小中学校の施設について、順次、耐震化を図ることとしています。そこで、これまでの耐震診断の結果と、今後の耐震化に向けての方向性についてご報告します。

今後の耐震化に向けての取り組みについて

黒潮町では、全ての学校施設について、平成20年度中に第2次診断に着手し、その結果が出たところです。

特にIs値の低い、拳ノ川小学校および伊与喜小学校の屋内体育館と入野小学校の校舎に関しては平成21年度耐震補強工事に着手する予定です。

そのほかの学校に関しては、順次改築、耐震補強工事などにより、耐震化を図っていきたいと考えています。

○お問い合わせ

教育委員会
大方学校教育係
☎ 43-1059(直通)
佐賀学校教育係
☎ 55-3190(直通)

(平成21年8月現在)

学校名	校舎					屋内運動場				
	棟	面積(m ²)	種別	第2次診断		棟	面積(m ²)	種別	第2次診断	
				Is値	q値				Is値	q値
拳ノ川小学校		1,388	R2	1.04	0.52	屋体	636	S2	0.11	0.34
伊与喜小学校		1,148	R2	0.85	0.46	屋体	636	S2	0.03	0.10
	継足棟	125	R1	新基準による施設						
佐賀小学校	北棟	925	R2	0.54	0.57	屋体	654	S2	0.11	0.35
	南棟	1,113	R2	0.37	0.29					
	東棟	300	R2	1.01	0.57					
伊田小学校		1,200	R3	新基準による施設		屋体	594	S2	新基準による施設	
上川口小学校		1,416	R2	新基準による施設		屋体	594	S2	新基準による施設	
南郷小学校		1,950	R3	新基準による施設		屋体	601	S2	新基準による施設	
田ノ口小学校		1,040	R2	0.66	0.54	屋体	532	S1	0.63	1.93
入野小学校	南棟	1,520	R2	0.35	0.47	屋体	636	S1	平成20年度耐震補強施工済	
	北棟	1,297	R2	0.27	0.36					
三浦小学校		1,437	R2	0.31	0.43	屋体	450	S2	0.17	0.53
佐賀中学校		2,095	R3	0.20	0.26	屋体	743	R2	0.34	0.14
大方中学校	南棟	1,322	R2	0.52	0.55	武道館	449	S2	新基準による施設	
	中央棟	1,100	R2	0.55	0.58					
	北棟	1,136	R2	0.58	0.61	屋体	1,138	S1	新基準による施設	
	技術棟	263	S1	0.60	1.83					

※耐震化の必要な建物とは、昭和56年5月末までに、建築確認を受けて着工した施設が対象です。したがって、昭和56年6月以降の新基準に基づき、建築確認を受けて着工した施設については、耐震化の対象外とされています。(表の内、「新基準による施設」と明記されている施設)

【用語説明】

- 「種別」のうち、「R」は鉄筋コンクリート造、「S」は鉄骨造の施設を表します。また、それぞれの数字は、階数(R2であれば、鉄筋コンクリート造2階建て)を表します。
- 「第2次診断」とは、柱・壁のコンクリート断面積に加え、配筋量から診断するもので、柱、壁、コンクリート強度、鉄筋量から建物の強さと粘りを推定し、梁の耐力が充分と仮定し、柱、壁から強度指数を計算し耐震性能を求めます。したがって、現地で亀裂の把握やコアサンプルの採取を行い、強度試験及び中性化の状況について診断します。
- 「Is値」とは、構造耐震指標といい、 $E_o \times S_D \times T$ の公式により計算されます。
(E_o : 保有性能基本指標 S_D : 形状指標 T : 経年指標)
地震の衝動及び衝撃に対して倒壊または崩壊する危険性を表すもので、その数値が大きいほど地震に強い建物といえます。学校の場合は、Is値0.7以上あれば倒壊または崩壊する危険性が低いとしています。
- 「q値」とは、保有水平耐力(水平方向の揺れに対する建物の強さの度合い)に係る指標で、国では1.0以上を目標にしています。